

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価評価書

札幌市立南白石小学校

1 重点目標

| |
|---|
| ◎自ら考え、判断し、表現する力の育成（学び力の育成） ◎命を大切にし、思いやりのある子の育成（豊かな心の育成） ◎自らの健康を考え、進んで運動に親しむ子の育成（健やかな体の育成） |
|---|

2 経営方針

| |
|--|
| 聴き合いで「自分がたいせつにされている」と実感でき、学び甲斐のある学校」 ・いじめへの組織的な対応 ・一人一人に応じた支援 ↓ ↑ （聴き合って） みんなと うごきだす つぎをかんがえ あとしまつ （聴き合って） |
|--|

| 領域 | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|------------|---|--|---|----------|--------|
| | | 達成状況 | 具現化へ向けた取組 | 自己評価の適切さ | 取組の適切さ |
| 学び力の育成 | 前後学年の系統性を踏まえて、課題探求的な学習展開を実践している。 ⇒授業と家庭での学習につなげているか。 | A | 成果 全学級で、1時間の授業で学習したことを振り返り、学習内容の定着を図ることができた。 家庭学習ノート(ぐんぐんノート)の取組を全学年で行っているが、来年度も内容について共通理解を図る。 | A | A |
| | 個別最適化を志向する授業を実践している。 ⇒ICTを活用した授業を積極的に実践しているか。 | B | 成果 ICTの活用が日常化したため、児童のクロームブックの活用時間や内容が進化している。 課題 学びの主体が児童であることを、子どもたちがより理解できる取組を進める必要がある。 | A | B |
| | できるわかる楽しい協働的な学びを志向する授業実践しているか ⇒子どもの問題意識の流れを大切にすることで、考え続けることを無理なく進めていけるように努めているか。 | B | 成果 職員が授業を見合うことができるように、時間の調整や他の先生の配置等を考え、若手の育成につながる取組ができた。 また、総合的な学習の時間や生活科の取組について見直し、再構築することができた。 | A | A |
| 学校評議員による意見 | | ・これからも学ぶことが楽しいと感じられるように、工夫していただきたい。 ・なぜ、学ぶことが大事なのかを子どもたちに伝え、自ら学ぶ意欲を育てほしい。 | | | |
| 豊かな心の育成 | 「話し方あいうえお」「聞き方かきくけこ」で相手の考えを想像しながら話す・聞くことの大切さを日常的に指導している。 | A | 成果 「話し方あいうえお」と「聞き方かきくけこ」を各学級で指導している。授業での児童の姿から、改善がみられた。 挨拶運動により挨拶は定着してきたが、来年度も引き続き取り組む。 | A | A |
| | 「4つのあ」特に、「あとしまつ」について「自らを振り返る機会」として重視している。 | B | 成果 行事ごとに、発達段階に合わせた振り返りシートを作成することで、児童が進んで取り組むことができた。 | A | A |
| | 特別な教科道徳の指導を充実させている。 | B | 成果 全学年で参観日に「特別の教科 道徳」の授業を公開したことで、保護者の方々にも道徳の意味合いを伝えることができた。 発達段階を踏まえて指導する内容項目が、保護者に伝わるように、構成を更に検討する。 | A | B |
| 学校評議員による意見 | | ・指導する側の価値観が、ある程度統一されていることも大切であると思う。多様性ばかりの重視ではなく、何が今正しいかを考えていくようにしてほしい。 | | | |

| | | | | | |
|------------|---|--|--|---|---|
| 健やかな体の育成 | 体力づくりのために整備された環境を積極的に活用したり、利用を促したりしている。 | A | 成果 異学年交流「ポプラ活動」による運動遊びやなわとび週間などの全校でのチャレンジ企画を取り入れることで、楽しみながら体力向上を図ることができた。 | A | A |
| | 中休み(昼休み)は積極的に身体を動かすよう意図的計画的に指導している。 | B | 成果 外遊びや運動遊びを奨励する計画的な指導を行ったり、教員による見守りや声かけをしたりすることで児童が自発的に身体を動かす機会を確保することができた。 課題 運動が苦手な児童でも楽しめる活動の工夫や季節や学年に応じた遊びの多様化などの工夫が必要である。 | A | A |
| | 自らの体力の向上の意欲を生むきっかけとしても、体育の授業を行っている。 | B | 成果 藻岩山スキー学習では、指導員や保護者の方々にサポートしていただき、上達する様子がみられた。来年度も専門家や保護者、地域の方々にサポートしていただける機会を設ける。 | A | A |
| 学校評議員による意見 | | <p>・体を動かすことは精神面の発達にも大切であるので、特性や成長にあわせた運動を心掛けてほしい。</p> <p>・運動・遊びを通して身体を動かす取組は、素晴らしいと思うので、継続してほしい。</p> | | | |
| いじめへの対策 | 子どもの状態や状況を観察し、それおを対応に生かすためのスキルを身に付けている。そしてそれを磨いている。 | B | 成果 担任の目だけでなく、学びのサポーターや相談支援パートナーの目が加わり、一人一人に対するきめ細かな見守りをすることができた。 来年度も組織的な対応の構築に努める。 | A | A |
| | 正確に認知するために状態や状況を確実に言語化し、普段から日常的な記録や情報の共有に努めている。 | A | 成果 様々な人の目を通して見たことを、いつでも見られるように記録化したことで、経過がより見やすくなった。記録したもの(記録媒体)や、記録されたもの(情報)をどのように扱うか来年度も共通理解を図る。 課題 会議や対応についての記録を作成する時間の確保が必要である。 | A | A |
| | 組織的な対応を理解し、適時適切なタイミングで対応を決定し、実行の上、検証している。 | B | 成果 担任外の目で見えた児童の様子について担任に伝えることで、様々なことを担任が把握できた。担任が多面的な情報をもつことで、より専門的で、児童の心に寄り添った指導・支援をすることができた。 | A | A |
| 学校評議員による意見 | | <p>・複数の大人で見るのが大事。また、先生方の心のケアにも力を入れていくことが大事。</p> <p>・些細なことからいじめにつながることが多いが、相手を思いやることや尊敬することを身に付けてほしい。</p> | | | |
| 信頼される学校づくり | 学校の情報が受け取りの立場に立って適時的確に発信されている。 | A | 成果 ホームページに加えて、保護者一人一人の携帯電話に連絡を入れることができるアプリケーション「すぐーる」の活用により、学校から保護者への連絡をスムーズに行うことができた。 | A | A |
| | 学校が集めたり、寄せられた情報に向き合い、適時的確に対応している。 | B | 成果 連絡手段としてのツールを取捨選択して、適時的確に情報を伝達することができた。 | A | A |
| | ライフワークバランスを意識したうえで、自らのスキルアップのために、重要度に応じて取り組むタスクの順序をきめている。 | B | 成果 ICTの活用等により効率化を図ることができた。 来年度も業務の重要度を精査し、業務の順番や手順等を共有し、互いのスキル向上を図る。 | A | B |
| 学校評議員による意見 | | <p>・IT化に合わせた機器やモラルの指導が大切であるので、親世代を含め上手に扱っていただける環境と指導をしていただきたい。</p> | | | |
| 効率的な業務推進 | 有効な教育活動を推進するために、校務作業時間の確保とさらに指導の充実を図ることができた。 | A | 成果 迦年度のデータを活用して効率化を図ることができ指導に向けての時間を確保することができた。 | A | A |
| | ICTの機器や校務PCを活用による校務の効率化を図ることができた。 | B | 成果 会議等の日程の固定化し、通知表作成に係る時間の確保を行う等時間の改善に向けた取組が行われた。 課題 ICTスキルの更なる活用に向けて研修の充実を図る。 | A | A |
| 学校評議員による意見 | | <p>・先生も指導するために情報機器に触れているので、日々の進化への対応、本当にお疲れのことと思う。</p> | | | |